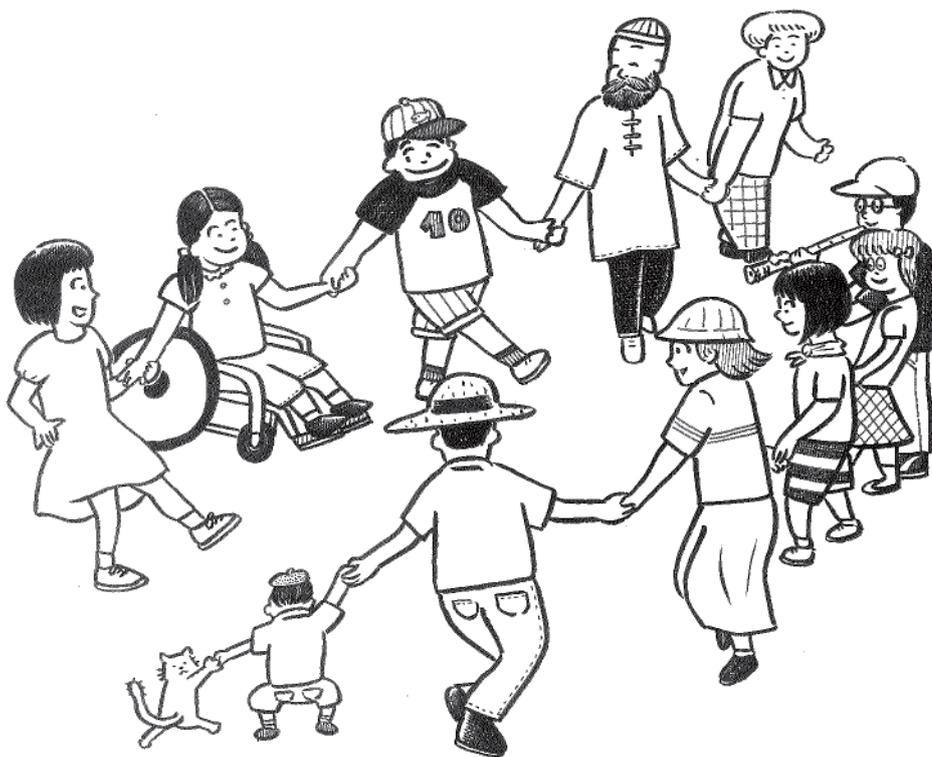


ちばしや通信

Vol.23



画 くさびら八郎

【トピック】

- ♪ 「災害時の福祉・介護支援を考える」
- ♪ 「心地よい関係性のバランス」
- ♪ 地域でつむぐ
- ♪ 起業・就労・支援の間で…
- ♪ つれづれなるままに
- ♪ 各種イベント案内
- ♪ “ときがね”なひととき
- ♪ 法人からのお知らせ

災害時の福祉・介護支援を考える

熊本地震での救援活動から②

平成28年4月14日に発生した

熊本地震は、熊本県と大分県の一部の市町村を中心に局所的ではあるが、大きな被害をもたらしました。

そして、震災発生から4カ月が経過し、地震活動は、減退しつつも現在も続いており、地域に暮らす人々、特に福祉的な支援を要する人たちの生活に支障をきたしています。

発生から復興に向けて、長く続く支援、災害が発生した際、福祉・介護の専門職・事業所は、どんな視点で、どのように支援していくことが大事なのか？熊本の支援から考えてみたいと思います。

前号（22号）に続き、青柳澄さん（ひぐらしのいえ・松戸市）の活動レポートから考えます。

〈派遣期間・場所〉

◆期間 平成28年4月25日(月)

～29日(金)

◆場所…①いつでんきなつせ

(熊本市東区)

②小規模多機能ホーム

健軍暮らし支えあい

工房(熊本市東区)

③小規模多機能ホーム

あんず(益城町)

④益城町総合体育館

(益城町)

避難所の状況把握

5月28日、益城町総合体育館でヒアリング。すでに、支援や介助の必要な人は福祉避難所に移動していた。体育館の天井が崩壊しているため、廊下や柔道場などの狭いところでひしめき

あつて多くの被災した方たちが生活していた。足の不自由な人たちにようやく段ボールベッド

が入り始めた頃だった。家族の支えがあればなんとか生活している人たちが、2週間ほど経ち、家族の疲労の色が濃くなり、介助が難しい人の支援が必要だが、すでに支援に入っていたY M C Aだけでは難しい様子。次のクールから入浴介助の

支援に入ることになった。避難所に来る人たちの格差が大きいことは東日本大震災と大きな差があるように感じた。自宅が全壊して、入れ歯やメガネ、補聴器なしで着の身着のまま逃げてこられて生活している人もいれば、半壊くらいでなんとか大事なものは持つてきて、避難所のスペースを使う人がいるなどだ。避難所にいけば、食料は確保できるし、何かあれば物資もたくさんある。常に知らない人がたくさんいてプライバシーのない生活であるが、何より誰かがいるということは健康に不安を抱える人にとっては安心なのだ。

また、テント生活をしている

人や、車中泊をしている人は、支援団体に把握してもらえない現状にもぶつかった。外の仮設トイレの段差をうまく上げない人がおり、その人は、息子さんと二人で車中泊をしていた。自宅では一人でトイレに行けたから大丈夫と思っていたが、実際には仮設の段差のあるトイレの使用が難しくなっていることには気づかなかつたという。さらに、この事をどこに相談すればいいか分からなかつたようだ。

私たちは、派遣団体の1クル目であつたことから、どのような支援ができるのか、方向性を探ることが重要だった。

まずは、この団体の大きな目的である益城町の小規模多機能施設を地域の拠点にする。そのためには、安定した介護力、地域とのつながりなどが必要になつてくる。その施設に介護スタッフとしてフォローに入るのはもちろん、施設のスタッフ、

すなわちその地域の被災した人が自ら力をつけていけるような継続した支援が必要。

そして、避難所の介護力の支援。要支援者はすでに福祉避難所に移動しているとのことだが、まだまだ介護や支援が必要なのはたくさん生活していた。

この後の生活を考えると福祉避難所に行くのが家族にも迷惑をかけないのだろうが、やはり住み慣れた所に帰りたいたいという方が多かった。避難所生活が長引くにつれて、エコノミー症候群や肺炎、運動不足による下肢筋力低下など、元気なお年寄りでもリスクの高い生活になっている。マッサージのボランティアも入っていたが、自分から体を動かす機会を作ったり、集まってゆっくり話をしたりするような憩いの場、レクリエーションの場を作っていくのには、介護職が最適だと感じた。

被災地支援を通じて（感想）

まずは、支援の方向性が定ま

らない中で、介護・福祉系の自分たちが被災地でどういうことをしていったらいいのを探ることから始めるというのは、難しい取り組みだった。

災害支援でなく、事業所支援なんだ、というところを理解できたのは3日目くらいだった。避難所に行くと、目の前のこの人の今の状況をなんとかしたい！と思ってしまうが、それだけではなく、この人が自宅に帰りたいのか、帰るためにはどうしたらいいのか、という長期的な目で支援に入ることが求められ、5日間、しかも毎日支援に入る場所が違うなかでは非常に難しかった。この教訓を生かして、2クール目からは1か所に同じ支援者が5日間入ることになる。

避難所で医療系のボランティアが、私たちがゆっくり話を聞いている方に、「県の調査なので、お話し良いですか？」と割り込んできた。内容は、「福祉避難所に入るんですか、行かない

んですか？」というものだった。その方は困りながら「……うん、そんなこと急に言われてもねえ」という返事がやっとだった。避難してから10日、やっと

家族のことや親戚のことが見えってきた状況で、即答を求めるようなアンケートはいかなものだろう、と。そして、同じような調査が何回も来て、嫌になっってしまうと仰っていた。ただでさえプライバシーのない空間で、明日のことすらもわからない人たちに向けてする調査の意味、そしてそこで得られた情報をボランティア団体間で共有できるシステムもできていないことに腹が立った。避難所では、

医療関係の団体が仕切り、その手の届かないところで介護・福祉系が動く、といった団体間の格差のようなものも感じられた。確かに、震災直後は医療優先かもしれないが、10日過ぎてからは、生活の再建という視点が必要な時期である。地域包括ケアと言われて久しいが、まだ

まだ多職種連携というには難しい現状であると痛感した。東日本大震災の反省を生かしていないと感じた。

熊本は、被害にあった地域が限定的なので、ある程度の支援をしながら、地域の人が自ら力を取り戻し、自分たちで地域を再生しよう、と思える支援が必要である。それは、私たちの行っている介護「自立支援」の考えた方と同じである。現地に行つて支援をするだけでなく、熊本の特産物を買ったり食べたり、観光に行つてお金を落としてくるのも支援になる。

今回、同じクールに全国で活躍する小規模多機能やグループホームの人たちと出迎え、5日間生活を共にし、意見交換や白熱した議論ができた。また、施設での支援方法、職員教育や人材育成などいろんなことを聞くことができ、振り返ることができたのは、多くの収穫だった。5日間、勤務変更して熊本で活動ができ本当に良かった。

心地よい関係性のバランス

第11回 感性と知識のほどよいバランス

『知識より感性?』

どうして福祉の仕事を選んだのだろう。時どき考える。理由はもちろん複数あるので、今となってはどれでもよいし、思い出せない理由もたくさんある。でも、もしかすると他人の心に寄り添うことが得意だと思っていたからかもしれない、と最近よく考える。学生時代から、相手の状況を言い当てるのが得意だった。理由はわからないけれど、「なんかそういう気がする」のだが、当たる確率が高かった。もって生まれたアンテナ感覚なのかもしれない。実習中に現場の職員に「どう思う?」と聞かれることさえあった。「こう感じます」と答えると「なるほど。参考になるわ」なんてことが何度あった。

もしかして私は福祉の仕事をするために生まれてきたのかも

しれない……とまでは思わなかったかもしれないが、とても自分に向いていると感じていた。自分の状況を上手に語れない知的障害の人たちを支援する現場で働くようになってからも、その能力は重宝したし、家族との信頼関係を築くためにも必要なものだった。いつもフル活用で「感じて」いた。だんだんと知識より感性のほうに役に立つような気がしていった。

『頼りになるのは知識』

『頼りになるのは知識』

ところが、このやり方はいくつか難点があった。まず、最初に気づいたのは後輩職員ができた頃だった。後輩に何かを伝えたくても「ただわかる」だけでは何も伝わらないのだ。先輩職員の中にもすばらしい支援をする人がいて、その人に「どうしてそう支援しようと思ったのですか?」と聞くと「なんとなく」などと答えられがっかりした経験があったのだが、自分も同じように「そんな気がした」「そう感じた」と答えるしかないのだ。これでは何も伝えようがない。「盗んでください。私には教えようがありません」と。さらに困ったことには、何となくうまくいった支援方法は、一発限りだ。次にはうまくいかなかったり、ほかの人には応用できなかつたりする。これも、いかに一度きりの支援にすべてをかけるというように、気に入っていた時期があつたのだが、だんだんと不安になつてきた。一発限りの支援はまぐれ当たりの繰り返しではないだろうか。成功にも失敗にも根拠がある。仕事で関わるといふことは、成功を増やし、失敗を減らす努力が必要だということではないだろうか、と。そんな時、頼りになつたのは知識だった。

知識を頼りにすることで、私は時どき感性モードをオフにするようになっていった。感性が冷静な判断を鈍らせていることに気づいたのだ。あまりにも悲しげに泣く青年に我慢できずに声をかけ、深く噛みつかれたことがあつた。私の感性がどうしても彼を慰めずにいられなかつたのだ。結果、彼はさらに激しく泣き、噛みつかせてしまった。感性モードをオフにすると、違つた情景が見えてくる。彼は今、何に不安を覚えているのか、何にそんな深く混乱しているのか。「私にはわからない何か」に激しく反応しているのだとすれば、感性だけでは理解できない。たとえば、彼の自閉症という障害の特性から考えると、この音が不快なのではないだろうか、この先の予定のことが理解できず不安になつているのではないだろうか、と心あたることがいくつも出てくる。駆け寄って声をかけ肩を抱く代わりに、スピーカーのスイッチを切つた

り、次の予定を示したりすることができるようになる。

『感性と知識のバランスが大切』
それでももちろん、どうしようもなく「何か」を感じてしまいうこともある。そんな時、すぐにかわかった気にならないことがたいせつなのだと思う。「何か」の正体を冷静につきとめるために、説明できる根拠を探すがとても大事だと思っている。まるで右脳と左脳をバランスよく使って相手を理解する、そんなイメージだ。以前よりも格段に他者に伝えやすくなったし、共有もできるようになった。成功も失敗も経験として積み上げるようになった気がする。感性と知識が助け合って一生懸命、目の前の人を理解しようとするかのような。感性と知識がお互いの思い込みを指摘してくれる。そんな気がしている。

※この原稿は、Juntos (フントス) CLC 発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

大友愛美 (おおもよしみ)

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場。知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニティワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。

最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場(学校や研修)での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれないな…、と感じている今日この頃です。

『びっころ流』

ともに暮らすためのレッスン』

〈1,600円+税 絶賛販売中〉

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



地域でつむぐ②

今年の夏に、無くてはならない存在の方とお別れをしました。その方とのことを今回は書きたいと思います。

北山さん(仮名)との出会いは、NPO法人お茶っこケアの前身で、「ちょこらい」という名称で被災者支援を行っていた震災直後まで遡ります。

当時、石巻沿岸部渡波の避難所で、集団行動に馴染めず何度も問題を起こして避難所を出て行く事になった頑固で喧嘩っ早いおじいさん「鈴木さん」(仮名)がきっかけでした。鈴木さんは、昔から気性が荒く、地元でも有名な、家族とも何年も連絡を取っていない状況でした。被災直後なので身寄りもなく、孤立していたところを、北山さんが助けてくれました。

「鈴木さんとは、民生委員時代に関わった昔馴染みだし、同年代だから良く知っている」と言ってくれました。北山さん自身も自宅が被害に遭いアパートで避難生活であるにも関わらずに「仮設住宅が完成するまでの数週間であれば」と快く部屋に泊めてくれたのです。

そのお蔭で鈴木さんは無事に仮設住宅に引っ越すことができ、ちょこらい

よつてがいは、東日本大震災の被災地、宮城県石巻市渡波地区で、被災者と共に「地域での暮らし」を支える実践に取り組んでいる。

からよつてがいが立ち上がったデイサービスを始める理由となった最初の利用者として沢山の思い出をつくりながら、加齢で体調を崩して亡くなる時まで仮設住宅で一緒に過ごしました。こうした鈴木さんとの関わりをきっかけにして、北山さんとは親交が深まりました。

法人のご意見番で大事な会議に出席して頂いたり、イベントを行う時の強力な助っ人として共に活動してくれたら、私たちの活動になくてはならない人となりました。

そんな北山さんが、震災から4年が経った頃に急に体調を崩し、原因のハッキリしないまま意識を失って倒れる事を繰り返すようになり、体調面の自信を失っていききました。

仙台にいる北山さんの家族は、北山さんが元気で活動している頃から「仙台で暮らそう!」と何度も誘い、体調を崩した後も何度も説得しましたが「慣れ親しんだ石巻を離れたくない」という本人の思いに負け、仙台から北山さんの暮らしを通いながら支えることになりました。

(よつてがいは 代表 粕屋裕之)

起業・就労・支援の間で…

「求められる福祉人材とは？」

(コミュニティワークス 理事長 筒井啓介)

前回は、千葉県での研究会の座長を務めさせて頂いたお話で次号に続く…と書いたのですが、その前に、今月はタイムリーな話題！福祉人材のことについて、書きたいと思います。

現在、弊社では2年ぶりに正社員の募集を行っているのですが、求人サイトの担当者や打ち合わせをした際に、「どんな人に来てほしいですか」という質問をもらいました。福祉の現場ですら、ご利用者様の様子の変化やニーズを的確に捉えられる方といった福祉的要素ももちろんあるのですが、一番は「セルフマネジメントができる方」かなと思っています。これは福祉職に限らず、どんな業種にも言えることかもしれませんが、仕事は日々の積み重ねです。どんなに華やかに見える仕事や職種でも、そこに至るまでには

個々の地道な努力の積み重ねがあります。福祉の仕事も同じで、やりがいや楽しいこともたくさんありますが、ご利用者様の支援は日々の積み重ねであり、時には苦しいことや理不尽に感じることもあるかもしれません。特に弊社は福祉作業所のため、作業だけを見れば毎日同じことの繰り返しになり、何のためにそれをやるのかという目的を見失いがちです。

ご利用者様1人1人に「こうしたい」「こうなりたい」という希望や目標があり、その実現に向けて私たち支援者が今何をしなければならぬのか、仮に課題があればどう解決していくかを日々考え、実践していくことが本質です。しかし現場にいると、どうしても目の前のことにとらわれてしまい、なぜ自分はこんなことをしている

のだろうか、このまま続けていったら良いのだろうかという衝動にかられます。ここで重要なのがセルフマネジメントです。上司や同僚からの評価ももちろんモチベーションになると思いますが、日々の地道な積み重ねの中にも、本質を見失わず、自分自身で目標ややりがいを見つけられるか、そこに自らモチベーションを持つことができる人こそ、今求められている福祉人材だと私は思っています。

Natural Café+Shop hanahaco

営業日：11時～16時（定休日：火曜）

住所：木更津市矢那 1879-1

電話：0438-38-4368

メール：info@npo-cw.net

【求人：2016秋】

福祉作業所での作業指導員～障がい者の働く場創りを一緒にしませんか？特定非営利活動法人コミュニティワークスが運営する「地域作業所 hana」「hanahaco」では、業務拡大に伴い、新たに正職員・パート/アルバイト職員の募集を行います。

応募締切：2016年9月30日(金)書類必着

★支援というと“助けてあげる/もらう”という関係を想像するけれど、ここでは障がいのある利用者さんとスタッフが「きちんと稼ぐ」という同じ目標をもって、一緒になって働いていました。だからでしょうか。働くスタッフたちは「関わりの中でお互いに変わっていく感じがある」と話します。今回は、そんな関わり方をしてみたい人を募集します。障がいがあってもなくても、しっかり稼いで自信をつける。そんな働き方に興味のある人は、ぜひ続けて読んでみてください。

http://shigoto100.com/2016/09/community_works.html

つれづれなるままに

前号にも、この夏は何かがおかしいというお話をさせて頂きましたが、

7月頃には、今年は台風がなかなか発生しないという状況でした。ところが、8月に入ってから連続して発生し、台風9号では私の自宅も母屋始め付属建物も被災し、近隣でも被害が多く発生しているため、業者の方が間に合わず、いまだに現状の回復がなされておりません。

また、迷走台風10号は一旦、南下したもののUターンし、勢力を増大しながら東北地方に上陸し、特に岩手県では暴風・豪雨による被害は甚大で、多くの犠牲者が出る結果となっていました。

とりわけ、岩手県のグループホームでは1ユニット9人のご入居者の命が奪われるという大変痛ましい状況であります。本会でも同様の事業を営むものとして、犠牲になられました方々

のご冥福を心よりお祈り申し上げます。近年は台風の大型化だけではなく、雨の降り方も、特定の地域に集中して降る「ゲリラ豪雨」が多発しております。これは、予測が難しいということですので、大気の状態が不安定という気象情報が出たら、直近の気象予報に注意しながら、災害に備えて考えられる準備はしっかりと整えていくという心構えが必要ではないかと考えております。

先日、東金市地域密着事業者連絡会（市内のグループホームや小規模多機能ホーム等の連絡会）、第3回定例会がふれあいセンターで開催されました。議題は幾つかありましたが、くしくも、先の台風10号での激甚災害、また、この地方を襲った台風9号による停電が12時間以上も続いた事業所もありましたので、それぞれの事業所で災害対策について、活発な意見交換が

なされ、本会の事業所も含め大変参考になりました。この連絡会を立ち上げた趣旨からも有意義な時間を共有することができました。

幸い、台風が去った後の気温の上昇が例年の様に高い状況ではありませんでしたので、エアコンが使用できなくても何とかしのげましたが、話題は、電気が長時間停止することによる様々な障害、疾患をもった高齢者の方々をお預かりしている中で、命を繋ぐための装置を最優先で動かすこと、室温のコントロール・照明の問題、冷蔵庫が使えなくなるので、食事の提供の問題であるとか、様々な意見交換があり、沢山の事業所から参加をしておりますので、視点

が異なり「目からウロコ」という大変参考になる意見もありました。東日本大震災を経験しておりますので、ほとんどの事業所が小型発電機を複数台保有しております。しかし、普段何なく自由なく電気・ガス、水道の

ある生活を享受しておりますが、この地方もいつ大地震がきてもおかしくないと言われております。風水害も稀な事では無くなつて来ている昨今、ライフラインが絶たれた場合等を想定し、災害対策を改めて見直す良い機会となりましたことを感謝しております。

（総合施設長 齊藤 操）



きもの地サロン	ヨガサロン	穂垂るの会
<p>着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。</p> <p>開催日：10月10日（月） 10月24日（月）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 鶯嶺の家（50－0285）</p>	<p>健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？</p> <p>旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。</p> <p>開催日：10月5日（水） 10月19日（水）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 ありさ（50－0362）</p>	<p>介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。</p> <p>開催日時：10月13日（木） 13:30～15:30</p> <p>会場：ふれあいセンター 経費：200円（お茶代） 主催・連絡先：穂垂るの会・井上 (090-7171-1701)</p>

ときがね・街かど福祉塾

「ときがね・街かど福祉塾」は、東金・山武地域の市民や福祉・介護・子育て・まちづくり関係など、人に関わる活動や仕事をしている人たちの学習の場、思いの共有の場、新たな縁（えにし）の場づくりとして実施しています。

東日本大震災以降中断していたものを、昨年10月より、月1回ペースで実施しています。ぜひ、ご参加ください。

対象：興味のある方ならどなたでも
定員：30名

（問合せ先：ちば地域生活支援舎
Tel:0475-53-3630）

《第14回》

「千葉県における障害者就労の現状と課題・可能性（仮題）」

日時：平成28年10月26日（水）
18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・第1会議室
講師：藤尾健二

（千葉県障害者就業キャリアセンター センター長）

《第15回》

「累犯障害者・高齢者の支援とは（仮題）」

日時：平成28年11月17日（木）
18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室
講師：岸恵子

（千葉県地域生活定着支援センター センター長）

東金ひと・しごと・くらしサポートセンターこころん

当法人では、平成28年5月より、東金市の委託を受け「東金市生活困窮者自立相談支援事業」の業務を開始しました。

概要は、ホームページ又はチラシをご確認ください。

◆営業日・時間

月曜日～土曜日 9:00～18:00

◆相談電話

0475(50)4251

◆メールアドレス

cocoron@ninus.ocn.ne.jp

◆所在地

東金市東上宿3-15



ときがね な ひととき

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

帰りの送迎中、目が不自由な高齢者のKさんから『今日は、楽しかったな〜！』と笑顔で言われ、（？今日は特別な何かをしたかな？）と考えました。普段、Kさんからよく耳にする言葉は、「自分は手がかからないから」「いいよ、他の方を見てあげて」「自分の事は自分でできるよ」と、いつも周りに気を遣って下さる方です。そのKさんが『今日は沢山会話ができました。いつもスタッフは忙しいからあまり会話が出来ないもん

なあ。それに自分はいつも同じ話の内容になるし、仕方がないか〜』というような事を言われ、『あっ！』と気付かされました。

Kさんに鴉嶺で自由にしてもらっているつもりが一人になっっている時間が多かったのでは？自分で動けるKさんに甘えていたのかもしれない。いつもの生活の中で忘れがちな声の掛け合い、私たちにとって他愛もない会話でも目の不自由なKさんにとっては、とても大切なことであり、コミュニケーションだったのです。

これからはKさんの本音をたくさん聞かせてもらえるように鴉嶺に行くと「気分がいいなあ」と思っけて頂けるような支援を行っていききたいと思えます。

鴉嶺の家（児童）

長かった夏休みが終わりました！スタッフみんな、暑い中を頑張りました。子ども達も元気に過ごしてくれました。今年はずごく暑いと脅されていた分、

熱中症もなく、事故もなかったことにホッと、感謝しながら濃い夏の日々を振り返りたいと思います。

今年は何といっても水遊びです。水っていいですね。足に少しくだけでも、涼しい気分を味わえました。水が大好きで、いつまでも入っていられる子。人が入っているのを羨ましそうに見ながらも、プールに入ろうとしない子。誰かがビニールプールに入っていると、なかなか入らないで周りをウロウロしている子。大きくて（中学生）プールに入らず、水鉄砲だけしたり、ホースの水まきを手伝ってくれたお兄さん達（結局びしょ濡れでしたが）。楽しそうだったのは、水鉄砲の打ち合いで、特に水着じゃないスタッフにかけてる時やバケツに水を汲んで、外に出したり自分にかけて、ホースシャワーをして虹ができること等々。心配していたほど、ずっと水から出ない子はいなくて、終わりを伝えるとほ

とんどがすんなり終えてくれました。来年もできたらいいなあと思っけています。

子ども支援センターぽけっと

賑やかだった夏休みも終わり、少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。子ども達も、学校が始まりいつものペースに戻りつつあります。

この夏休みも子ども達の色々な成長を強く感じる日々でした。

野球が大好きな小学校3年生のK君。昨年までは、男性スタッフの真似をしてタオルで素振りの練習や、外でボール投げをするくらいでした。しかし、今年は高校野球に熱中。毎日テレビを観ては、「アウト！」「打った！」と真剣そのもの。試合が終わると、スライディングの練習や、中学・高校生のお兄さんたちが腹筋や腕立てをしている中に混じっていました。ほぼ毎日スタッフ相手に公園でバッ

ティンダ練習：

今後も続くのでしょうか!? 楽しみです。

中学・高校生の子ども達には食事の準備や片付け等、生活習慣の一環としてスタッフと一緒にやってきたところ、「ご飯のスイッチは何時に押すの?」と気にしているY君や、M君はテーブル拭きをお願いすると「何で俺なんだよ!」と言いながらも、「わかったよ。このゲーム、セーブしたらね!」と手伝ってくれていました。

また、思春期に入り、心と体の成長と共に今まで楽しめていた事がやりたい事と合わなくなったり…という子ども達もいました。とても大事な時期なので、保護者の方や関係機関の方々と連携を図りながら、どのような対応をしていくべきなのか、一緒に考えていけたらと思います。

サポートセンタースピリッツ

この仕事をしていると『病気』と向き合うことが多々あります。『病気』と闘うのか、受け入れるのか、諦めるのか、どれをとつても正解がなく現状を受け止めていくのしかないと思っています。

もちろん基本的には『病気』を治すことを前提に治療をするわけですが、年齢を重ねると治療をとるのか自分の思いをとるのかで大きく状況は変わります。思いと言うのは、例えば糖尿病がある人がリスクを承知で食事制限をせず食べたい物を食べる、体調が悪化する恐れがあるかもしれない人が好きな映画を観るために外出するなど、様々な考えられます。しかし、そこには立場があり、家族がいる人であれば、本人の思いよりも、家族の願い(長生きしてほしい、健康になつてほしい等)が優先されることが多いと思います。また、自分の思いを主張できる

人、出来ない人もいらつしやいます。もちろん様々な人の思いや願いが交差するのでどれが正解ということはないのですが、どんな状況の人と向き合う際でもその人にとってプラスの関わり方が出来ることを考えていきたいと思えます。

街かど福祉相談室ると

早いもので今年もあと3か月です。るとが立ち上がった4年が経過、現在5年目ですが、以前からつながりが大切でとか、様々な機関とつながりを持つのは大変でとか言っていました。『塵も積もれば山となる』です。気付いてみたら色々なつながりを持てるようになりました。認知度としてはまだまだですが、名刺の数や連絡先一覧を見ると、いつの間にかこんなに増えていたとしみじみ感じます。電話で「相談支援事業所るとの〇〇です。」と名乗っても先方から怪しまれないように

なりました。この間電話をした相手を確認せず自分の名前を名乗ったら「あなたはどこだ?」みたいな空気が流れました。あれ? おかしいなと思ったら別の場所に電話をかけていました。『初心忘れべからず』です。調子に乗らず、確認することが大事です。何事も慣れてきた頃にうっかりしたミスが起きます。ほとんど自分に言い聞かせている内容ですが、少しでも「ある、ある」と同意してくれた方、お互いに気を付けていきましよう。

ハンドワーク

◆生活介護

生活介護では、ふれあいセンターに飾る絵を作成するのに折り紙を使って生き物や動物を作っています。細やかな作業が続くので、集中して作業するのが大変です。

また、天気の良い時には丸山公園や日吉神社に散歩に行った

りしています。

時には、ありさのメンバーと一緒に散歩に行ったりもします

(^0^)

Yさんは、散歩が好きで散歩に行くとき大きな声で歌を歌ったり、急に走り出してニコニコ嬉しそうにしています。

◆就労継続支援B型

稲穂が段々と色づき、頭を垂れ始めた今日この頃、いかがが過ぎでしょうか？

最近のハンドワークでは、秋の販売に向けて毛糸を使ったボンボン作りにチャレンジしています(^-^)

好きな色を選んで、巻いて切つてを繰り返して、初めての手順に皆さん真剣に取り組んでいました。いつもは汚れる作業に気の進まないAさんも、職員のアドバイスを真剣に聞きながらの作業。呑み込みの速さに驚き、思わず一面を見つけることが出来ました。「完成〜！」の声が上がると、すぐに「髪留めに

してみたら？」「今作っているエコバックに付けたらどう？」等々の声が(^0^)

秋に向けての作品の完成がとても楽しみです。

ありさ

8月19日(金)に東金アリーナ・メインアリーナにおいて第13回山武地区スポーツレクリエーション大会に参加してきました。

綱引き・パン食い競争・紅白玉入れ・ボール転がし・風船運び・紅白リレー等に出場し、パン食い競争は全員参加でお目当てのパン目がけて突っ走りました。最後のリレーは会場内大歓声で大盛り上がりの中、スポーツレクリエーションは終了しました。

当日は千葉ロッテマリーンズからマー君たちが応援に来てくれて、皆で体操したりして、とても楽しい一日を過ごすことが出来ました。普段運動をするこ

とがなくなつた今、楽しく身体を動かすことができ、怪我や事故もなく無事終了することが出来て大変良かったと思います。

五根の家

◆小規模多機能ホーム

通いで来られるKさんはとても情報通で、地域のお祭りや催し物、お店の新規オープンからお天気情報までジャンルを問わず何でも知っており、スタッフも分からないことがあつたら尋ねてとても頼りになる存在です(^-^)

話は変わり、最近はお年寄り同士でお互い助け合つたり気遣いあつたりする姿がよく見られます。あるお年寄りが『トイレ行こうかな〜どうしようかな〜』と悩まれていると近くにいたお年寄りが『一緒に行つてあげるから行こうよ！』と手を引いて案内してくれたり、トイレ前で『待つてあげるから先に入つていいわよ』と順番を譲ら

れたりしています(^-^)
リビングでお茶をお出しすると、あるお年寄りからご自身でお茶をいれ、スタッフに差しだし、『あんた達も大変なんだから、お茶でも飲んでゆつくりしなさい！』と気遣つて下さいます。

お年寄りの優しい気遣いに心が和み、いつも以上にお茶が美味しく感じられました。

◆グループホーム

在宅で五根の家・小規模多機能ホームをご利用されていたTさんですが、数か月前に五根の家・グループホームに入居されました。

Tさんは元々一人暮らしで、近所の方からとても慕われておられます。グループホームに入居される時には涙ぐまれ、一人暮らしを維持していくことがなかなか厳しくなってきたり、自覚はあるものの、慣れ親しんだ自宅を離れなくてはならない切ない思いが交錯されての涙だった

と思います。

私たちスタッフはご家族と共に、そんなTさんの想いを大事にしていきたいと考え、ご本人が自宅に行きたいと希望があったらご自宅に立ち寄るようにしました。

先日、希望があった時に自宅に立ち寄ってご主人の遺影を持ち帰り、居室のタンスの上に置いて『いい男でしょ!』と、とても嬉しそうでした。近所で行きつけのお店にも寄ってコロケや餃子を買ひ、皆さんに声を掛けられ、表情が活き活きとされておりました。

今の生活にも段々と慣れ、帰宅の希望はあまり仰らないですが、何かあればいつでも帰れるという安心感が大事なのだと思います。

地域福祉情報・相談センターりんく

営業：午前10時～午後8時
場所：東金シヨッピングセン

ター「サンピア」内1階
(ステージコート脇)

ハンドワークからのお知らせ

ハンドワークではfacebook(フェイスブック)を始めました。普段の活動内容や、商品・イベント情報などを発信しています。まだ始めたばかりですが、これから内容の充実を図っていきたく思います。興味のある方は、是非フェイスブックをご覧ください。

検索は ⇒ facebook ハンドワーク ARISA

内容：福祉、介護、子育て、

ボランティア・市民活動

に関する情報提供、相談

★福祉・介護・子育て等に

関する情報の掲示・配布

をご希望の方は、当法人

まで ご連絡ください。

(0475533630)

スタッフ募集

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方、一緒に働きませんか？

日数・時間・曜日・内容(介護・保育・支援・食事づくり・清掃など)・年齢等ご相談に乗りません。

興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475533630)

ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身につけたスキル、体力等、自分らしさを生かしたボランティア活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475533630)

編集者のつぶやき

毎号、ちばしゃ通信の表紙に「味のある画」を提供してくれているのは、「くさびら八郎」を名乗るアーティストだ。彼は、障がい児者の生活支援の仕事、そして2児の子育ての傍ら、表紙画を提供してくれている。本当に凄いパワーだ。タイミングを見て、しっかり紹介したい!と思っていた矢先、彼自身が新しい道に進む事になり、今号をもって、「くさびら八郎」の表紙画は終了することになった。。本当に残念!本当に感謝!(jerry)

今年台風が9・10号と立て続けに本州に上陸したことによって各地で様々な被害がありました。ちば舎でも台風による倒木や損傷や利用者の方々のちょっとしたパニックはあったものの、利用者の方々への怪我はなく、台風を凌ぐ事ができました。(W)



ちばしゃ通信 (Vol.23)

発行日：2016年9月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630